

平成27年第9回 湯沢市教育委員会議事録

日 時：平成27年9月2日（木）午後4時00分

場 所：湯沢市役所 4階 44会議室

1. 会議に出席した委員

1 番	藤	井	泰	樹
2 番	和	田	隆	彦
3 番	佐	藤	和	広
4 番	後	藤	美	喜子
5 番	芳	賀		誠

1. 会議に出席した事務局職員

教育部長	山	内	信	弘
教育部次長兼教育総務課長	佐	藤	茂	樹
教育部学校教育課長	近	野	良	浩
教育部生涯学習課長	佐	藤		司
教育部教育総務課主幹	斎	藤	正	幸（書記）

1. 会議に提出された議案

報 告 湯沢市教育長に対する事務委任規則に基づく事務の管理及び執行について

平成26年度湯沢市の教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価報告書について

【午後3時57分 開 会】

芳賀委員長 第9回湯沢市教育委員会を始めます。

昨日、9月1日の市の広報に、本市の中学校におけるキャリア教育につきまして、非常に大きく取り上げられておりました。大変良い企画と思って読ませていただきました。市の色々な産業の方にも受入れの呼び掛けをしていただきまして、世の中の発展性のある内容と思います。全中学校で行っているとのことですので、十分この機会を活かしていただきたいと思います。

前議事録の承認

芳賀委員長 それでは、次第の2、前議事録の承認であります。事前配付されておりますが、何か訂正等ございますでしょうか。

— 〈発言なし〉 —

芳賀委員長 よろしいですか。

— 〈異議なし〉 —

芳賀委員長 それでは承認といたします。

議事録署名委員の指名

芳賀委員長 今回の議事録の署名委員は、1番の藤井委員、2番の和田委員にお願いします。

教育長報告

芳賀委員長 それでは、次第の3、教育長報告です。よろしく申し上げます。

和田教育長 五点あります。

一点目は、児童生徒のことですけれども、夏季休業中、児童生徒に関する事故、或いは補導等について、小中学校ともありませんでした。現在、二学期が順調にスタート出来ています。

二点目は、教職員の交通事故ですけれども、8月7日に栄養教諭の追突事故一件ありました。体調不良時の運転により信号待ちの車に追突し、人身事故扱いになりました。頸椎捻挫、右肩関節捻挫で2週間の加療ということでした。加害者は運転時、頭痛の治療中で服薬もしていたとのこと、この日は、県総合教育センターでの研修会の帰宅時でした。事故場所は、横手市醍醐の国道13号上でした。

三点目は、児童生徒の各種大会、コンクールです。全日本吹奏楽コンクール第58回東北大会が、8月30日に青森市で開催され、湯沢北中学校のほか、横手南中学校、勝平中学校、大曲中学校、山王中学校（シード）が出ましたが、湯沢北中学校は銀賞で、横手南中学校、勝平中学校も銀賞、山王中学校と大曲中学校は金賞で、その中で全国大会は山王中学校とのことでした。実際に演奏を聴いた方々から伺いますと、非常に上手な演奏になっていたとのことでしたが、レベル的には上の学校がいてこのような結果になったとのこ

とでした。

中学校陸上競技東北大会が、8月8～9日に山形県天童市で開催され、110mHに出場した雄勝中学校の藤原拓馬君は、決勝で8位とのことでした。タイムは14秒69で、予選で記録されたものです。湯沢北中学校の生徒が出場した走り幅跳びと走り高跳びは、予選で敗退したとのことでした。全日本中学校陸上競技選手権大会では、雄勝中学校の藤原拓馬君が110mHに出場したわけですが、予選は3位通過で14秒46だったそうです。これは、自己最高タイムです。準決勝は14秒86で4着で敗退とのことでした。この後、国民体育大会に出場しますので、そちらのほうで頑張ってくれると思います。

四点目は、先ほど資料をお配りしました全国学力・学習状況調査結果ですが、小学校では、市全体で各教科・科目とも全国・全県の平均通過率を上回っております。小学校11校あるわけですけれども、それぞれの教科・科目ごとに見ますと、課題を抱えている学校がありますので、二学期中に助言・指導等を計画し、該当校の課題解決に向けて支援していきたいと思います。なお、中学校では市全体で、全国の平均通過率を各教科・科目で上回りましたが、県との比較では、各教科・科目で下回っています。特に、国語、数学B、理科の教科が課題であると出ております。市教育委員会の担当で、今、更に細かく分析中ですが、実施日が4月21日でしたので、既に各校とも対策を組んで一学期、二学期にやっているわけですけれども、改めてこのような結果を見ますと、どんどん貯金がなくなっている状況です。しかも、小学校が全国や県の中で良い成績にいる中で、中学校でこのような形で通過率が下がってくるということは、授業改善も含めて各校に課題があると捉えています。新聞その他のニュースでは、B問題対応について、或いは県全体としてこのような面が弱いと報道されておりますので、そちらも併せて、この後、各学校に指導・助言していきたいと思います。9月8日に校長会もありますので、その時にも学校教育課として、分析ができているところまでは話をする予定です。

最後に五点目です。他県からの学校視察ですけれども、9月4日、7日、15日、16日、11月26日に他県からの学校視察があります。福島県喜多方市立第一小学校が雄勝小・中学校、同じく喜多方市立塩川小学校が駒形小学校、同じく喜多方市立山都中学校が皆瀬小・中学校、最後の11月26日が福島県西会津町教育委員会で、教育委員会職員と小中学校教員計4名が視察します。内容は、学力向上、小中連携、地域連携、小中一体型校舎等についての内容になっています。昨年度も学校視察がありましたけれども、学力向上、小中連携、地域連携、それから雄勝小・中学校と湯沢東小・北中学校は、実際に小中一体型校舎を参考にしたいということの視察だそうです。

以上です。

芳賀委員長

ありがとうございました。

今、五点について教育長より報告がありましたが、これにつきまして何か質問等ありますか。

－ 〈発言なし〉 －

芳賀委員長

よろしいですか。

－ 〈なし〉 －

議 事

芳賀委員長 それでは、次に次第の4、議事に入ります。今日は報告が二件ということ
であります。最初に、湯沢市教育長に対する事務委任規則に基づく事務の管
理及び執行について、お願いします。

山 内 報告、湯沢市教育長に対する事務委任規則に基づく事務の管理及び執行に
教育 部 長 ついてです。湯沢市教育長に対する事務委任規則に基づく事務の管理及び執
行の状況について、第1条第2項の規定に基づき次のとおり報告いたします。
事項は、教育委員会及び教育委員会の所管に属する学校その他の教育機関の
職員の人事に関することであります。専決年月日は、平成27年8月1日です。
内容については、次の4頁に記載してあります。氏名は、齊藤みゆきです。
発令事項は、教育委員会職員に任命する、主査に補する、教育委員会事務局
教育部雄勝文化会館勤務を命ずるということでございます。議会事務局から
の異動でございます。
以上です。

芳賀委員長 今の件につきまして、何か質問等ございますか。

— 〈発言なし〉 —

芳賀委員長 よろしいですか。

— 〈異議なし〉 —

芳賀委員長 それでは、次に移ります。
次の報告は、平成26年度湯沢市の教育に関する事務の管理及び執行の状況
の点検及び評価報告書についてです。お願いします。

佐 藤 私から、教育行政評価の概要について説明させていただきます。
教育部次長 例年の事ですが、改めて評価制度の概要等をご報告させていただきます。
これは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律が平成19年度に改正され
て評価制度が新設されたものです。該当条文は第26条ということになってお
りますが、昨年度の法改正によって第27条であったものが第26条に繰上げら
れております。内容的には特に変わりはありません。教育委員会が行う事
務事業について、点検評価を行って、その結果を最終的に議会に報告するこ
とがその内容でございます。具体的な点検評価の内容ですが、ご承知のとおり
、教育委員会は毎年、教育行政方針を定めておりますので、教育行政方針
に定められた内容について、それを評価するものでございます。評価方法に
ついては、教育委員会事務局3課ありますけれど、それぞれ内部評価（自己
評価）を行った後に、客観的な評価を得るということで、知識経験を有する
方々から意見をいただく形になっております。今年のエド行政評価委員につ
きましては、資料に記載のとおり3名の方々に、本市のエド行政評価委員
会は任期が2年となっておりますので、去年が1年目、今年が2年目というこ
とで、この3名の方々については今年で終わりです。エド行政評価は今年で
6年目（3期）を迎えている状況でございます。今年のエド評価委員会は、5
月19日に開催し、そこで事務局から内容等を説明し、委員の方々からご質
問を受け、それに対して委員の方々から最終的なご意見をいただいたものをま

めて、今回、ご報告しているものでございます。資料につきましては、事前配付しておりますので、個別の説明は事務局からはいたしませんので、委員の方々からご質問があれば、それにお答えしたいと思います。なお、評価委員会からの報告書でございますので、誤字脱字、言い回しが絶対に変だということ以外は基本的には修正はできないことになっておりますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

芳賀委員長

ありがとうございました。

資料の枚数が非常に多いわけですが、事前配付いただきましたので、目を通していただいたものとして、内容の変更等ということではなくて、いわゆる質問や感想、印象、意見等ありましたらお話いただければと思います。

後藤委員

先ほど、教育長から全国学力・学習状況調査の結果が示されましたけれども、評価の3頁目真中辺に、県の学力・学習状況調査においては中2での落ち込みが広がっているとあります。かなり危惧されて今年度の3年生が受けたものと思いますけれども、この位であれば頑張ったほうではないかと私は思います。多分、学校で対策を立てて頑張っ、これだけの差にしたのではないかと良く解釈しています。

教育長

同じ頁に、課題の大きい4校には訪問を実施したと書いてありまして、実際、小学校と中学校を訪問させていただきました。全国学力・学習状況調査の後に、県の学力・学習状況調査、本年4月の全国学力・学習状況調査へ向けての対策・目標等を挙げていただきまして、それと照らし合わせた結果、上がって（近づいて）きていると捉えられる学校もありますし、「なぜ」という学校もありました。そこはすぐこちらで把握して、先ほど報告させていただきました支援をしていきたいということです。4校すべてがだめだったということではありません。

芳賀委員長

他の委員からは何かこの点についてありませんか。

藤井委員

3頁の(4)の③の防災教育ということですが、これはどのようなことをやっているのですか。

近野
学校教育課長

市教委としては、大きい行事として、夏休みに子どもを各小学生から集めまして、県で防災対策を推進しているチームがありますので、その下で色々と防災について学ぶ機会を設けていますし、各学校については、避難訓練等毎学期1回は実施しているわけですが、その際に色々な講師の方を呼んだり、色々な話をしながら、自分の命は自分で守れるようにということを重点的に指導しているところです。

藤井委員

いわゆる避難訓練みたいなものですか。

近野
学校教育課長

避難訓練もでございます。学期に1回、地震と火災とを想定して行っています。年2回の学校もありますし、多いところは3回実施しています。

藤井委員

4頁の(3)で、稲川の統合について聞きたいのですけれども、大体何%くらいが理解しているような感じでしょうか。

山 内
教 育 部 長

昨年度、稲川地域4地区の学校長、PTA会長と意見交換をし、今年度は、稲川地域4小学校の校長、教頭、PTAの役員の方々と、それぞれの学校で意見交換をしまいいりました。それは、統合を前提とした話ではございませんで、稲川地域においても児童数が大分減少してくる傾向が見えますし、その資料を提出いたしまして、子どもたちの教育環境をどのようにして地域で考えていくのかということ、その中には当然保護者の方々からも統合を市ではどう考えているのかという話もございました。教育委員会としていついつ進めるとか、どうこうという話ではございませんで、そのことをお話して、それぞれ色々な実情をお聞かせいただきました。例えば、学校の学習環境においては、多い少ないは関係なく、少ないところでも、例えば稲庭小学校でも十分先生方が色々ご尽力いただいて、うまく組み合わせて、サポートの方もいらっしゃると思いますので支障なく勉学に励んでいます。ただし、それ以外の学校活動、スポ少もありますし、運動会や修学旅行など色々な活動がございますが、そうした面での寂しさを感じる等、たくさんのそうした意見が出されてきました。統合については、やはり学校の環境によっては、あまり日常的に考えていらっしゃる学校の役員の方もいらっしゃいましたし、早目に統合も考えるべきではないかという意見も出されました。ただ、私共として説明したのは、将来的にある程度の規模を持った教育環境を作るとなれば、先ず、学校を取り巻くPTA等保護者がどういった意見を持っているのかを集約いただきたい。それから、今度は学校を取り巻く地域がどのような考え方なのか。そうしたところから発展して最終的に稲川地域としてどのようにしていくのか。そうしたプロセスを踏んで統合というものに進んでいくことをお話して、先ず、統合するしないを別として、今の児童生徒数、それから、教育環境の現況と将来的にどのようにしていくのかということ、ある程度日常的に色々と考えていただければという会議の内容です。

藤 井 委 員

共通理解を図ったとありますが、今は統合でないかもしれないですけど、いずれ統合という理解ですか。

山 内
教 育 部 長

そのようなニュアンスは持っておりました。

藤 井 委 員

その共通理解で良いですね。

山 内
教 育 部 長

現況としての共通理解と、将来的にどうなのかという共通理解です。

佐 藤 委 員

全国学力・学習状況調査のことで新聞にも載っていましたが、秋田県は自学自習型、2位の福井県は先生が課題を出している宿題型と載っていたのですが、ぱっと考えた時には、先生が与えた問題を無理やりやらせるよりは、秋田の方式が良いのではないかと個人的には思ったのですが、そのように学習の仕方、指導の仕方が違ってそれだけ学力が伸びている福井の取り組み方も非常に気になる印象を受けました。なおかつ、本市は小中連携教育に力を入れているけれども、中学校に入ると勉強も難しくなる点もあると思うのですが、若干、県との差も無くなってきたりしていますので、後藤委員からは頑張ったほうではないかとお話ありましたが、その点、この後の報告を受けて、実際どのような状況になっているのかが非常に気になるというのが、全国学力・学習状況調査で私が受けた印象でした。

近 野
学校教育課長

問題の通過率の一覧をお出ししましたが、この他に、子どもたちの意識調査も実施しております。その意識調査の結果を見ますと、中学生に限って言えば、非常に学校が楽しいし、勉強も面白く、そして解ると答えています。これは、県平均よりもずっと高いレベルにあるのです。ところが、通過率になると、県より少し落ちてしまう。ここにギャップがあると言うか、ここら辺のところを私たちが分析しながら、授業の中でどう改善していかなければいけないのかというあたりを学校の先生方と共に考えていかなければいけないところだと思います。子ども同士の間関係が良い、学校に自分自身の居場所があって学校生活に満足度が高いけれども、そのような雰囲気に分れてと言うか、何となくスーッと自分自身と成績とか学力というのにきちんと向き合わないまま、もしかしたら何となく学校生活が過ぎていく部分も、もしかしたらあるのではないかという感じも、私の個人的な感じですけどもしています。授業の中では、知識や技能をきちんと修得するというのと、それを使って仲間と共に学び合うというような学習を、バランス良く授業の中でやっていくというあたりが課題かと思っています。小学校が良いのに中学校が落ちるといふところがあるわけですが、中学校の課題のように見えるのですが、実は小学校の後半（高学年）になった時に、中学校に向けて発達段階も違うので、中学校の授業スタイルを意識した小学校の授業改善もこれから求めていく必要があるかと思っています。具体的には、中学校に行くと感じなければいけないことが2倍、3倍位になってきます。そのために授業のスピードが上がってくるのです。そうすると小学校のスピードから中学校のスピードに合わせていくのに非常に難儀していくというところがあるので、授業の流れ、リズム的なところも小学校で中学校に繋げていけるような改善も必要でないかと今のところ思っていますが、具体的にどうしていくかは学校教育課の中で考えていきたいと思っています。小中連携教育を進めている中で、中学校に上がると落ちるといふのは、我々も大きな課題として捉えて、これから取り組んでいきたいと思っています。福井は、大学入試を目指した取組みを一生懸命やっている地域なのです。福井は、日本海側ですが大阪が近いので、非常に進学意欲が高い地域で、そういった学習スタイルなのです。教え込みではないのですが。秋田は、自ら学ぶ意欲を大事にして、自学という形に持っていることだと思うのですが、今回の結果を見ると、本市の子どもたちは復習中心の学習をしているのです。予習の割合が非常に低いです。自分でもっと主体的に学ぶという姿勢を持っているということであれば、予習にも力を入れるような形に変わっていくと良いのかなと思います。そのためには、授業そのものに主体的に関わっている子どもたちの姿を基本的には求めていきたいと思っています。

佐藤委員

学力が上位の地域は、大体似ているところが多くて、犯罪率が少ない、睡眠時間が多い、本を読んでいる時間が長い、朝食を家族で取っているとか、共通する部分が多いのをどこかで見たことがあるのですけれど、その中でも学習スタイルが違うということ、宿題型というのは今回の新聞で初めて知ったものですから、違っていても学力は上がるので、教育の仕方は一本ではないということが非常に感じられました。

近 野
学校教育課長

福井は、高校の成績も良いのです。上へ上へという上級学校への意欲が非常に高く、それにあった教育なのかなと思っています。

芳賀委員長

他にありませんか。

後藤委員 先ほど委員長が冒頭のあいさつで触れられた、昨日配付された広報に載っていた職場体験の件ですけれども、去年、リストを作成して、そのリストを参考にして、今年度は各中学校で職場体験が実施されたわけですけれども、事業所について、これからまだまだ増えていってほしいという願いです。そのための働き掛けなどを、力水の会等で話し合っていていただいて、よろしくお願ひしたいと思ひます。

近野
学校教育課長 昨年度作成したものを今年度も見直して、今回の市広報もありましたので、また企業の方にお願ひしていきたく思ひています。

後藤委員 実際に私は、子どもたちが夏休み中だったと思うのですけれども、体験しているところに2～3カ所遭遇しました。一生懸命やっていて、普段教室で学ぶのとは全然違う姿勢だったので良いなと感じて帰ってきました。広げていって欲しいと思ひます。

芳賀委員長 他はどうでしょうか。

佐藤委員 学校教育の推進の(2)の②と⑥は関連しているのですけれども、子どもの不登校やいじめの件に関してなのでも、先ほど教育長の報告で、休業中の事故等何もなかったということと、この前の日曜日にテレビ番組でやっていたけれども、子どもの自殺する日が一番高いのが9月1日(二学期が始まる時)であると、秋田は早いのでその前ですけれども、今回はそのような報告はなかったということで胸をなで下ろしているのですけれども、そういう点では、本市は、先生方も教育委員会もそうですけれども、いじめや不登校に関しては先手先手で的確な判断をしていただいている成果が数字にも出ているのだなと思ひています。出来れば、不登校もいじめもゼロというのを最終目標にして、今の取組をより一層強化して進めていただきたいと思ひております。

芳賀委員長 他はいかがでしょうか。

後藤委員 今年の夏休みも教育委員会のスタッフの方々が、文化会館に詰めて、成人式やサマーミュージックフェスティバルなど、本当に頑張っている姿を見て、大変だったなと、ご苦労さんと言ひたいです。私は、郡会議事堂に展示されている近代児童の作品展も見に行きましたが、本当に素晴らしく、この教育財産をこのままお蔵入りさせるのはもったいないと思ひたりして、どこか常設展示できる場所があれば良いと感じて帰ってきたところです。多分厳しいだろうと思うのですけれども、教育委員会でも色々と考えてやっているのだろうと思ひますが、本当にみんなの目に触れさせたいと思ひました。

芳賀委員長 生涯学習課は、展示について何かありますか。実施しての感想でもよろしいですが。

佐藤
生涯学習課長 常設して常に展示できる施設は、今、教育委員会では少ないという状況にありますので、先ほど後藤委員がおっしゃられましたとおり、そのようなものをできるだけ広く公開できるような施策を検討してまいりたいと思ひます。

芳賀委員長

良い企画でしたね。まだ続きますね。
大分出ましたけれども、まだまだあるのではないのでしょうか。他にないですか。

－ 〈発言なし〉 －

芳賀委員長

私からですが、2頁の最後のところに学校図書館整備のことが載っています。これは、補助を受けて図書館整備のための職員配置をしているわけですね。これがなくなることについて、大体整備できていてこれで良いのか、或いは本当は続いたほうが良いのか、その辺はどうでしょうか。

近野
学校教育課長

平成26年度は、県事業で配置させていただいておりました。それが今年度はないということで、配置することができなかったということですが、今回の全国意識調査の中にも、読書がやや好きでないという傾向も出ていますので、学校図書館の整備にあたる職員を来年度配置していただくとありがたいと考えているところです。

芳賀委員長

これは本来教員の仕事なのですが、今度、小学校英語というのも入ってきて、また負担が大きくなるのです。ですから、図書館の整備、或いは読書活動を進めるスタッフを、教員以外に学校に、常時でなくても巡回でもいいですが、必要であればソフトという形で最後は市で雇用するというようなことも、私は必要でないかと思います。英語が入ってきて教科となりますと、小学校はかなり大変でないかと思います。今は外国語活動ですが。また、いじめや不登校は、なくなったからと息を抜くと復活するようなものですから、常時エネルギーを必要としますし、学校図書館整備の職員、読書活動の職員というのは、正規職員でなければなくても良いですが、無いという形は改善すべきでないかとは私に思いました。

次に、学校建築等ずっと続いてきましたが、給食センターを除いて、いわゆる大規模な建築・改築等は、一応今年度で一段落するという事は本当にうれしいことで良かったと思いました。大地震がありまして、追加の工事等も入りましたけれども、それも順調に行われたということで、建築関係につきましては本当に長い間続いて大変だったと思います。本当にご苦労さんでした。給食センターは、来年度一杯で一応完成の方向ですので、それ以降は、老朽校舎の改善ということで、建築からすれば小規模なのです。そうになっていった場合に、教育委員会の力は生涯学習を含めてソフト面に重点を移していく時期になってきていると思いますので、先ほどの図書館のこともありますし、英語教育の充実で、例えば、指導員を増やすとか、或いは昨日の県の情報ですと、ALTを増やすという市町村もあるようですし、人的な形で、いわゆる生涯学習、学校教育がよりきめ細やかに行われるようになっていくように、お考えいただきたいと思っております。

稲川地区の学校の状況につきましては、先ほど部長から話していただきましたが、大変良い形で進められているのではないかと受け取りました。私たちとしては、複式は弊害が大きいということは原点だと思いますので、そこを踏まえながら、地域の深い想いや考え方を引き出すようにやっていっているということは、大変良いと思っております。

生涯学習では、湯沢地区の総合型スポーツクラブが進みつつあるということですね。

佐藤 藤
生涯学習課長

今年の3月に正式に国の承認を得まして設立をされております。

芳賀委員長

それは、他の地域の活動までにはまだ行く状況ではないということですか。

佐藤 藤
生涯学習課長

現在のところは、所属のスポーツ団体が4つ（サッカー、アーチェリー、ロードバイクほか）の構成になっており、まだ地域のスポーツのリーダーという役割にまでは至っておりませんが、今後、市でも支援しまして、そのような団体に育成していきたいと考えております。

芳賀委員長

大変良いと思います。
私からも何点かお話いたしましたけれども、これでよろしいですか。

－ 〈異議なし〉 －

芳賀委員長

それでは、教育行政評価報告書につきましては以上といたします。
次第では、その他になります。報告があるとのことですのでお願いします。

佐藤 藤
教育部次長

資料の報告事項を見ていただきたいと思います。

初めに、教育委員の学校訪問についてです。日程の案ということで資料を差し上げております。案と申し上げましても、既に学校の日程も詰まっておりますので、この日程で行いたいと思います。10月6日、7日に、資料に記載している学校、それから、統合学校給食センターの工事現場、今年新たにできました旧秋ノ宮小学校にあります雄勝スポーツセンターも見学したいと思っておりますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。いずれも、この二日間において、昼食は自費でお願いしたいと思ひますので、出欠については、前の週の10月2日（金）あたりまで、どうしても難しいという場合はご連絡いただければと思ひますのでよろしくお願ひしたいと思ひます。

二つ目、湯沢雄勝市町村教育委員連絡協議会の研修会ということで、これも回り番の当番の本市の二年目ということになります。今回はまだ日程が取れません。見学としては、本市のジオサイトということで、庁用バスを使いまして回りたいと検討しておりますが、他町村の状況とバスの日程がうまく取れない状況がありまして、予定としては、10月下旬から11月上旬あたりを詰めていきたいということで、10月6日の学校訪問のあたりまでには日程を詰めていきたいと思っておりますのでよろしくお願ひいたします。この研修会は、午後から現場を見て、夕方（17時30分以降）懇親会がありますのでよろしくお願ひいたします。

以上です。

芳賀委員長

他に、報告、連絡等ございませんか。

－ 〈発言なし〉 －

芳賀委員長

よろしいですか。

－ 〈異議なし〉 －

芳賀委員長

それでは、これをもちまして第9回湯沢市教育委員会を閉じます。

【午後 4 時43分 閉 会】